

## 第24回 宍粟市総合教育会議

# 会 議 録

(要点筆記)

日時 令和6年7月12日 午前10時30分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

## 第24回 宍粟市総合教育会議 会議録

### ● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和6年7月12日（金） 午前10時30分～午後11時20分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所 4階 402・403会議室

### ● 会議に出席した者の職氏名

#### 構成委員

福元晶三	市長	中田直人	教育長
片山繁樹	委員	金本一二	委員
飯田さおり	委員	中川まゆみ	委員

#### 事務局

大谷奈雅子	教育部長	大砂正則	教育部次長
鳥羽千晴	教育総務課長	中田 吏	学校教育課長
小池信仁	こども未来課長	谷口さゆり	こども未来課副課長
清水将道	社会教育文化財課長	大田貴久	施設整備課長
大北真彰	山崎学校給食センター所長	岩本浩二	教育総務課副課長

## 1 開会

### ● 福元市長あいさつ

教育委員会から引き続いての総合教育会議となりますが、よろしく申し上げます。

今日はしそよう幼児教育支援事業について、この後事務局より説明等を受けたのち、忌憚のない御意見を申し上げます。

## 2 協議報告事項

### (1) しそよう幼児教育支援事業について

#### ● 事務局より説明

令和5年度しそよう幼児教育支援事業のリーフレットをもとに、こども未来課 小池課長より説明を行った。

続いて、資料「令和5年度しそよう幼児教育支援事業のまとめ」と「しそよう幼児教育支援事業」に基づき、こども未来課 谷口副課長より説明を行った。

今年度は宍粟市立一宮北子供園を研究モデル園として指定し、研究協力校として、宍粟市立一宮北小学校に協力を得ながら、年齢集団を通した学びと育ちのための教育の在り方や小学校への円滑な接続のためのカリキュラム研究を進めています。

第1回宍粟幼児教育支援委員会を7月1日に行いました

この会では、幼児教育施設で幼児の内面を高めるために取り入れている保育記録やドキュメンテーション、職員間でのカンファレンスなどについて協議しました。

ドキュメンテーションとは、遊びの1場面を切り取り、幼児が何に興味を持っているのか、子どもたちが何に気づき、考えているのか、また、どのような体験を重ねているのかに目を向けるためのものです。

目的や対象などを明確にすることが求められているため、引き続き誰に向けて伝えていくのかということも明確に、また伝えたい内容についても焦点化を意識しながら研究、研修を取り組んでいきたいと考えています。

また、小学校の先生方と幼児・児童間の交流も含め、双方の教育の相互理解ができるように発信をしていきたいと考えています。

## ● 委員からの意見及び質問並びに事務局からの回答等

### (片山委員)

7月1日の支援委員会に参加させていただき、大変質の高い会議をされていると感じました。平成29年以前までは中学校区でパートナーシップ研修が行われており、中学校区の小・中、それから保育所等、民間も含めた形で呼びかけはあったが、参加が強制ではなかったり、昼間の会議で民間の参加が少なく、幼・小あるいは保育所と小学校の接続部分では統一された取組がなかなかできなかったのを覚えております。

この4月1日の支援委員会では、ドキュメンテーションをという形で子供の成長を共有する。民間の先生方も構成員となった委員の方が1年間、小学校の協力を得ながら、焦点化された形で子供の姿を共有する研究が深められているのは非常に期待の持てる研修であり、改めてすばらしい取組が始まったと感じました。

### (小池こども未来課長)

就学前の幼児教育における質の向上は今後も必要であると考えております。

民間のこども園の方も委員に入っていますが、昨年も民間の園長が委員に入っておられ、この会議の意図をくみ取ってくださり、園としても動いていかないといけないとの認識を持っていただき、自分のところの園で公開保育を行われました。これも、こういう取組の中の一つの成果であると考えております。

このような取組が今後とも民間にも広がり、研修の中で保育士の質の向上さらには幼児教育・保育の質の向上につながっていけばと考えております。

### (中川委員)

前年度の委員会を見させていただいた。先生方がとても熱心に参加されていて、グループ討議では反省点や今後の取組など積極的な意見が出ていた。

具体的に少人数で話し合うことで自分のものになっていくと思うので、いい取組だと思った。保育士はそれぞれ専門機関で勉強して現場にいるが、やっぱり経験の違いだったり人間性の違いがあって、子供の見方が画一的になりがちだったりする。

この委員会に参加することで、子供たちの見方や声かけなど具体的に体験できるのは保育者にとってとても勉強になることです。公立、民間問わずなるべく多くの先生方が研修することで自信を持って保育に取り組めると思う。

小学校との連携で「かけ橋プログラム」が地域でつくられており、宍粟市で今後、取り組むと資料にあったが、小学校の先生と話をしていると、「幼稚園の年長さんってこんなことができるんや」とか「こんな深く考えてできるんやな」ってびっくりされることがある。小学校に入学して1年生になると最小の学年ということで、すごく幼い子に関わるような感じで先生方が関わっておられるなって感じた事があって、5歳児の子供は「こんなふうに考えて、協力して、こんな疑問を持って過ごしているんだ」というのを委員会の中で小学校の先生方にも見ていただけるのは、連携の部分ですごく重要だと思うので、小学校の先生にも幼稚園の教育内容を見ていただきたい。

#### (谷口こども未来課副課長)

子供の遊びの中には、子供たちのいろんな気づきや考え、学びがあることを保育者が読み取る力を身につけていくことがとても必要だと感じています。

#### (金本委員)

千種で民間のこども園を整備する協議がされた際に、地域では私立より公立のほうが安心という意見が大多数で、なかなか話がまとまらなかったのを記憶している。

この度公立だけでなく私立のこども園の方も参加され、その中でいろんな勉強をされたことは大変すばらしい。これをきっかけに、どこの施設に行っても同じ今幼児教育を受けられるという方向を示していただいたら、地域の方々も安心されるのではないかと思います。

一方で、中身の濃い研修であります。遊びの中で子供たちの成長を見極める保育士はとても大変だと感じた。研修では何枚も写真を撮って、その写真をどう活用するか、自分たちの保育にどう活かしていくのか考えて準備することは業務的にハードではないかと感じた。委員会の中でも講師の先生が「働き方改革の中で、これだけのことを全部しようと思ったらなかなか大変なので、誰にでもできるような進め方をしていかなければいけない」と言われた。研修内容が深まれば深まっていくほど、保育士の業務が負担になり、保育士を辞めることにならないか心配になりました。

#### (大谷部長)

委員会翌日の7月2日に、学校園長の評価を公立・私立のこども園に持っていただいてそれぞれ教育委員会の評価・面談等をさせていただきました。

園長先生からは、昨日の研修が非常に内容の濃いものであり、全職員が参加することができなかったのも、参加した職員を中心に早速、園内で昨日の研修のことを話し合った。というところもあった。また、わが園ではどのようにしたら取り込めるのか、また園の中で過度に職員の負担にならず、しかし、昨日教えていただいたいろんな先生方からのエッ

センスを盛り込んだ形で取り組んでいきたいと話し合いをしたという園もありましたので働き方のことも含めて、園全体が同じ方向で質を高めようと意識を持っていただくと、いろんなことが助け合いの中でできていくのではと考えています。

**(飯田委員)**

資料で河東幼稚園の公開保育の様子を読ませていただいて、楽しそうな子どもたちの様子が伝わってきた。また、先生たちの関わり一つ、言葉がけ一つが、次の子供の行動を大きく変えるのを感じて、先生方が子供のために一生懸命関わっていただいているのが伝わってきて、先生方の関わりに感謝しました。

以前、ある人から「本当に勉強できる子っていうのは、友達と虫捕まえたり川で泳いだり、小さい時に思い切り自然の中で遊んで成長し、その中で勉強できる子が本当に賢い子だと思う」と聞いたことがあって、改めて自分が育ったこの宍粟、子供を育てた宍粟は子供が育つ環境としたら完璧だと思いながら読ませてもらった。

**(中田学校教育課長)**

委員会に昨年度も今年度も参加された小学校の先生方は口をそろえて、とにかく、幼稚園や保育所、こども園に行こうと言われていた。就学前にどんなことをして、自然の中で、あるいは地域の中でどんなふうに成長して、園舎の中ではどんなふうに子供たちと関わっているのかを知ったうえで、小学1年生として迎えるのとそうでないのでは、つながりという部分で大きく違いが出てくるので、率先して見に行こうという声を聞いています。

**(福元市長)**

資料の中で何点か質問をさせていただきたい。

「保育カンファレンス」とは、どんな場面・状況か教えていただきたい。

**(谷口こども未来課副課長)**

普段の保育を行った後、職員が集まる中で、その日の子供の姿を振り返り、子供たちの気づきや考えを職員同士で環境づくりや言葉だけをどのようにしたらよいかなど意見交換を行い、次の保育に活かすような話し合いを進めることを保育カンファレンスといいます。

**(福元市長)**

「ドキュメンテーション」という言葉は先生方は日常的に使われているのでしょうか。

**(谷口こども未来課副課長)**

はい。使っています。

**(福元市長)**

「架け橋プログラム」とは、具体的にどのようなプログラムですか。

**(谷口こども未来課副課長)**

各園所で地域ごとの実態を踏まえ、地域の中での子供の姿をとらえた中で、今のこの子たちに何が必要か、小学校入学につなげていくために必要なことはどんなことかを考えた取組を考えたものが架け橋プログラムです。各園ごとの特色やその地域の良さを踏まえて考えています。

**(福元市長)**

就学前施設のDX推進事業で園所と保護者を「専用アプリ」でつなぐ事業は、令和6年度となっているがすでに実施されているのでしょうか。

**(小池こども未来課長)**

今年度、秋の導入に向けて整備をしている。

**(福元市長)**

総合教育センターが5月にオープンし、2か月が経過しました。これまでの委員さんからのご意見にもあったように、「接続」という部分と教職員の先生方の研修の場所として、官民間問わず期待されると思いますが、この間で総合教育センターでより充実した部分などありましたら教えてください。

**(大谷部長)**

元々の研修センターからスタートした事業拡大はまだ十分に図れておりませんが、環境が整ったことは学校の先生方への認知も徐々に広がっています。特に夏休みを中心に施設の利用が活発に行われる予定です。

**(福元市長)**

こども園や幼稚園、民間の園所の先生方に対する研修などの取組は、今後行われるのでしょうか。

**(中田学校教育課長)**

パートナーシップ事業は継続して行っており、就学前と小中の先生方が集まって年間の計画を立てています。この総合教育センターを使うケースもありますし、それぞれの小・中学校に集まって、交流事業を計画し、既に春からスタートされています。

(福元市長)

しそう幼児教育推支援業は始まったところなので、教育委員の皆さまには今後も指導や助言をよろしくお願ひ申し上げます。

今日の協議報告についてはこれをもって終了とします。

#### 4 閉会

中田教育長が閉会した。

会議録署名 市長 \_\_\_\_\_

教育長 \_\_\_\_\_